

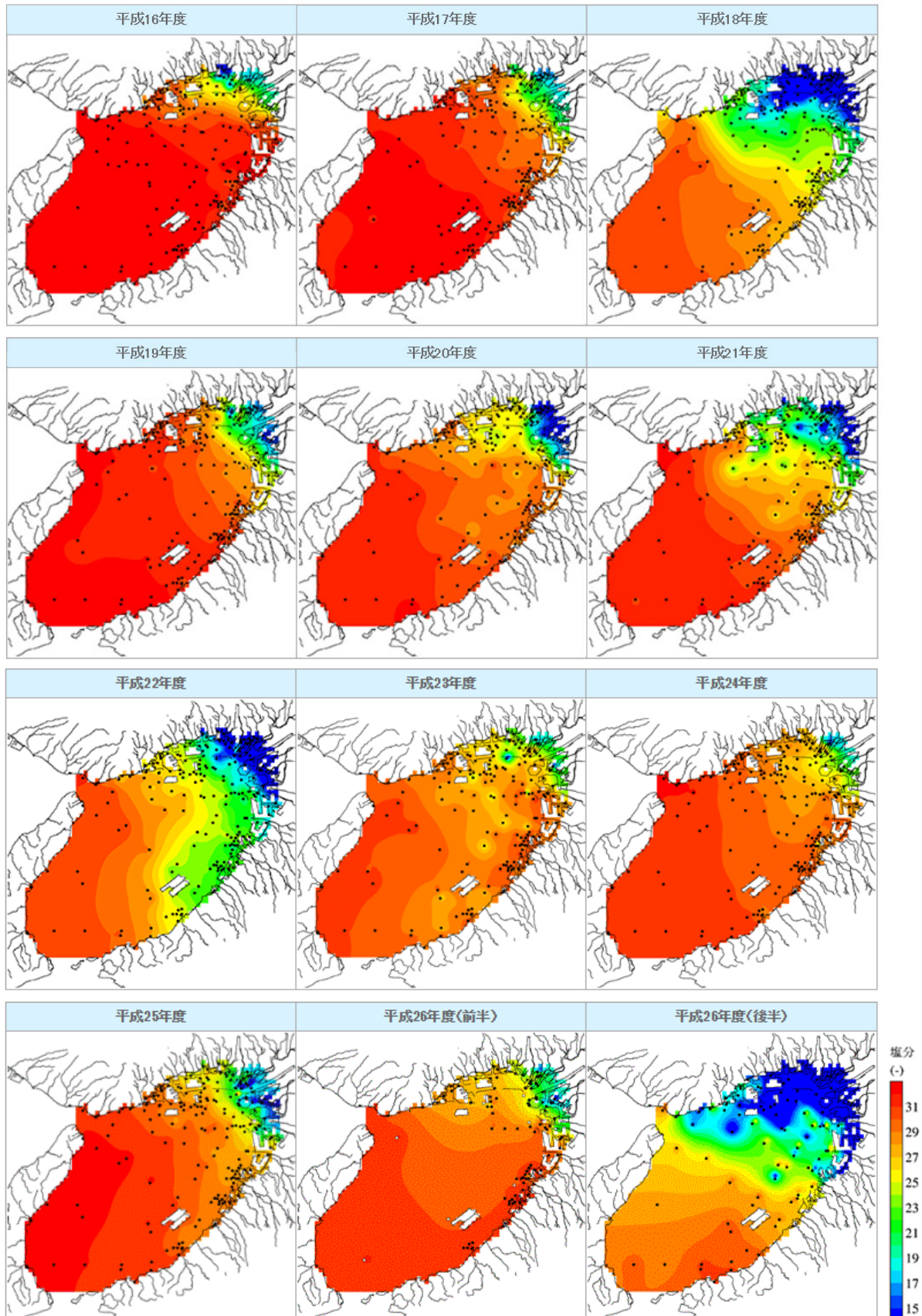
塩分（表層）の分布図・経年変化図

表層の塩分は、淀川や大和川の河川水が流入する大阪湾の北東側で低く、西側で高い傾向がみられます。

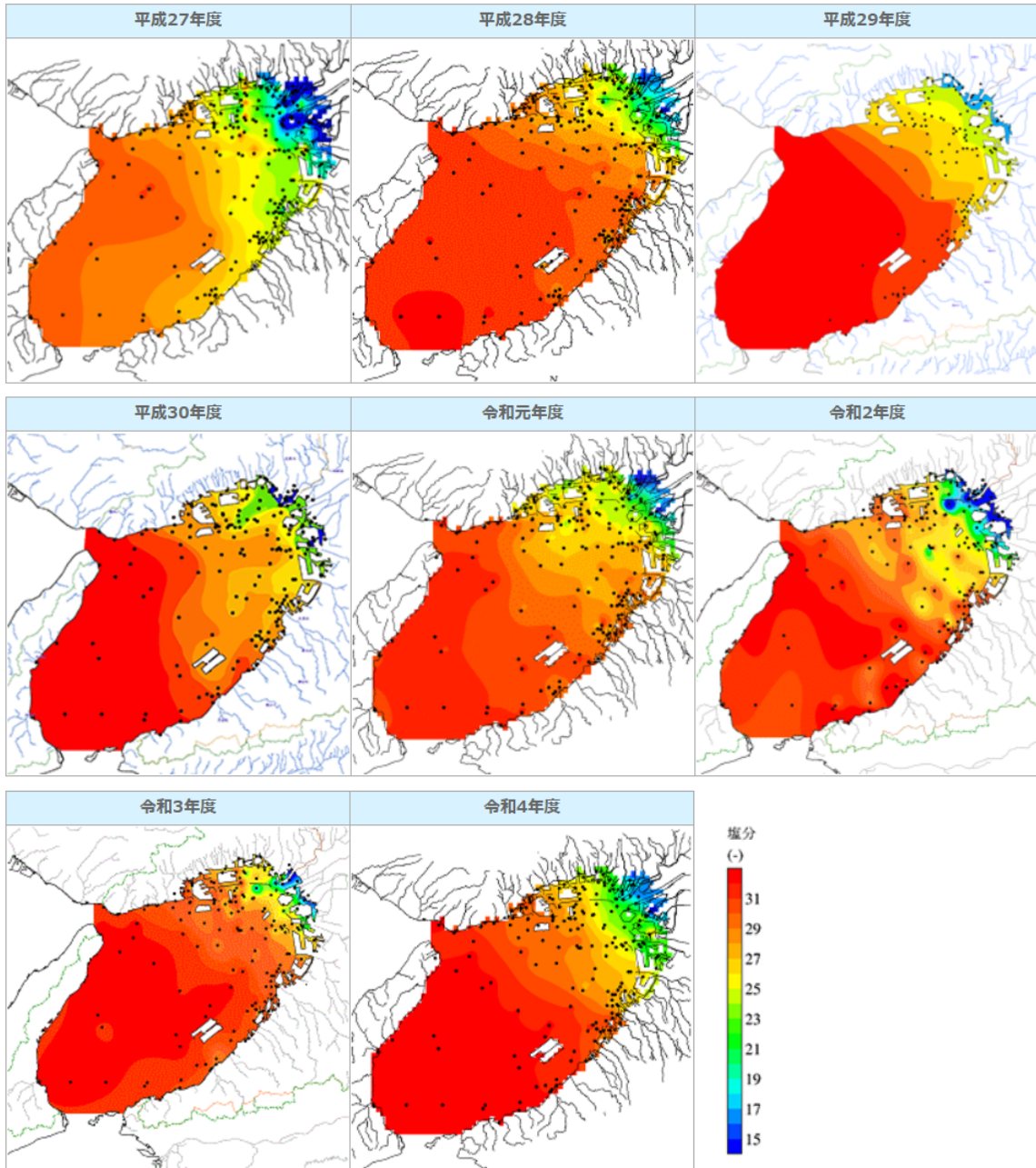
本調査結果は、夏季1回の結果であり、調査実施時の気象・海象の状況による影響を受けています。水平分布の色は、赤いほど外海の影響を受けており、青いほど河川水の影響を受けていることを示します。

調査日前に降水量が多く、大規模な出水がみられた平成18年度及び平成26年度（後半）は、表層塩分の低い面積が大きくなっています。

II 水平分布図

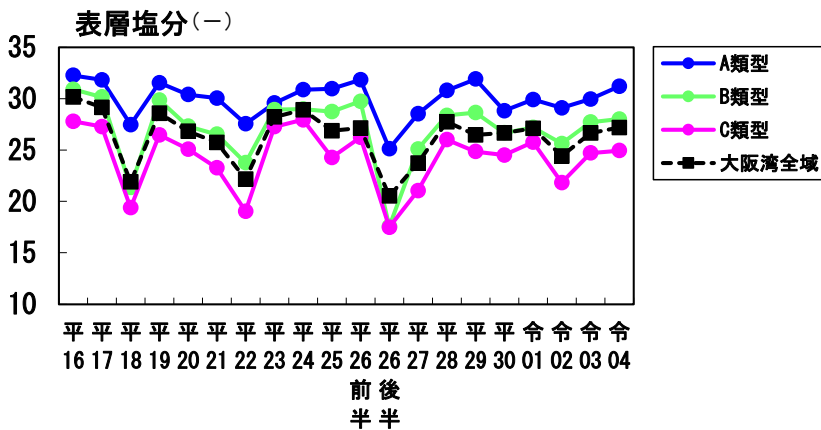


|| 水平分布図



注) 平成26年度(前半)の水平分布図は、水質定点自動観測データ(8月3~7日の平均値)により補完しています(図内白丸の地点)。

|| 経年変化図



類型区分図